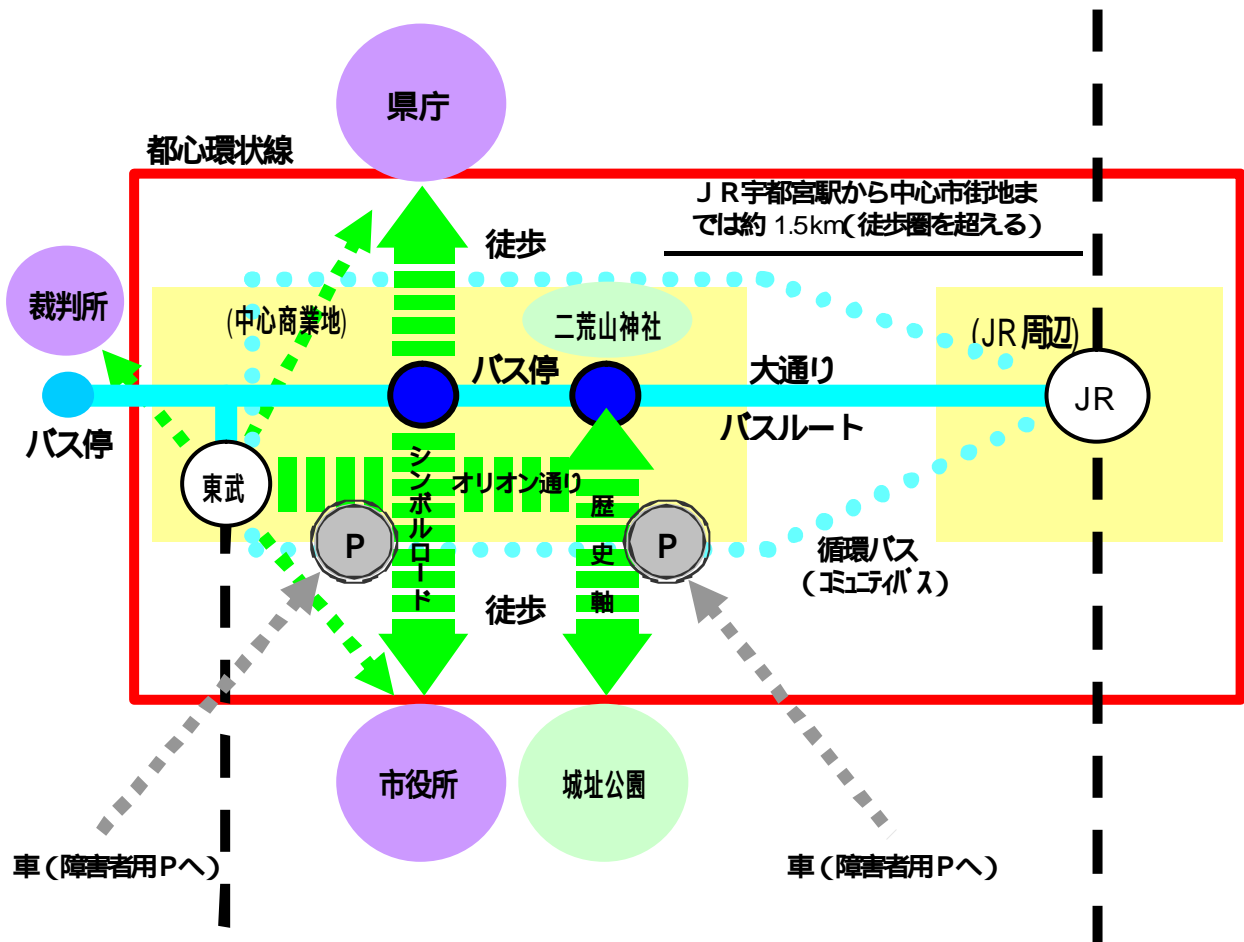


(3) バス停

バス停の統合に取り組み、“安全で快適な待ち合い空間”として整備することを検討します。

- ・ 中心市街地の軸である大通りでは、バスが1日当り片道1,000本以上運行し、複数のバス会社が乗り入れているために、乗降場1箇所に複数のバス停が設置されている状況にあります。
- ・ このため、バス利用者の利便性の向上を図るために、バス停の統合に取り組みます。
- ・ また、交通バリアフリー法の道路構造基準にできるだけ合致し、かつ中心市街地での主要な交通結節点にふさわしい“安全で快適な待ち合い空間(ベンチや上屋など)”として整備することを検討します。

宇都宮駅周辺における移動の考え方と拠点となるバス停



バリアフリー化の達成目標と事業内容の整理

達成目標	事業内容	事業主体			
		国	県	市	バス事業者
ペDESTリアンデッキや駅前広場をバリアフリー化します	a) 安全で円滑な歩行空間の整備に関する検討				
	b) バス、タクシー、一般車両の乗降場における乗り継ぎ環境の改善（スムーズ横断歩道化など）				
	c) 視覚障害者誘導用ブロック、案内サイン、舗装面の整備				
歩道や交差点部を、だれでも歩きやすいようにバリアフリー化します	a) 基本的な道路構造の検討（歩道部における透水性舗装の整備の検討など）				
	b) 交差点部の巻き込み部分における段差の解消・平坦性の確保、横断方向を区分する施設設置（視覚障害者誘導用ブロックの適正な配置、横断防護柵の設置）、横断歩道の路面標示と縁石などの施設配置の整合性確保など				
	c) 電線地中化の検討・推進				
視覚障害者の誘導設備の整備、視覚情報・聴覚情報の提供を進めます	a) 視覚障害者を円滑に誘導するために、視覚障害者誘導用ブロックの設置（輝度比の確保）・ネットワーク化				
	b) 近年の音声案内技術などの開発動向を考慮した音響音声案内装置の検討				
バス停での乗り継ぎ環境の改善を進めます	a) バス停における上屋・ベンチの整備などの検討		*	*	*

（ : 改善を必要とする項目）

*) 今後、道路管理者、バス事業者、宇都宮市が協議して整備（維持・管理を含む）のあり方を検討する。

) 「電線地中化」は、用語の説明（P51）を参照。